

Facebook, 2021.11.11 より

友人の高橋純（アツシ）氏（小樽商科大学名誉教授）が、
高橋純[編訳]『高田博厚=ロマン・ロラン往復書簡—回想録『分水嶺』補遺』（吉夏社）
を出版されました。

小林多喜二の母校・小樽商科大学（旧小樽高商）に長年勤務した高橋氏が、多喜二の獄中拷問死に対するロマン・ロランの抗議文が当時のフランス共産党機関紙「ユマニテ」に掲載されたという言説が広く行き渡っているにもかかわらず、「ユマニテ」をいくら調べても当該記事が見つからないという「謎」の真相を究めようと努力された結果、

- (1) ロマン・ロランの抗議文の「不在の証明」
- (2) 上記「抗議文」と取り違えられた重要な記事が「ユマニテ」に掲載されていた
- (3) 上記記事掲載実現の仲介役はロマン・ロラン
- (4) 上記記事のロマン・ロランの介在には、彫刻家・高田博厚が重要な役割
- (5) 「ロマン・ロランの抗議文」伝説誕生の経緯

を明らかにし、2009年に小樽商科大学の紀要に発表されていました。（本書に再録されている）

その後、さらに一連の経緯の詳細を究明すべくパリのフランス国立図書館に通い、同館の「ロマン・ロラン寄贈資料庫」中の未公表の日記や書簡を博捜された結果、高田博厚からロマン・ロラン宛ての手紙14通、ロマン・ロランから高田に送られた手紙9通をはじめ、種々の貴重な資料を発見されました。

本書には、上記23通の手紙のほか、「ロマン・ロランの日記抜粋」など数点の貴重な資料が収録されています。

本書出版の反響も大きいようで、特に高田博厚の新発見、再発見、再評価の機会になっているようです。

著者・高橋純氏の長年の執念と言ってもいいようなご努力に敬意を表するとともに、その成果の一端の公刊に満腔の祝意を表します。